

孫の力 情報室

文 草野恵子

孫育てのエキスパート、「ソフリエ」ってなに？



ソフリエの認定証は自治体の長から贈られる。



NPO エガリテ大手前の主要メンバー。主婦や会社員を中心に、大学教員、弁護士、医師、看護師、消費生活アドバイザーなど、幅広い層が参加している。

- ## ソフリエール
- 一、親の方針が絶対。
 - 二、親とのコミュニケーションを大切に。
 - 三、育児を楽しむこと。

ソフリエとして守らなければいけない大事なポイント「ソフリエール」。育児の司令塔は絶対に両親。ソフリエはあくまでサポート役。自分たちの子育てで果たせなかったことを孫で果たそうなどと思っけないことを明記している。

ソ

ムリエならぬ「ソフリエ」という言葉をご存知だろうか。

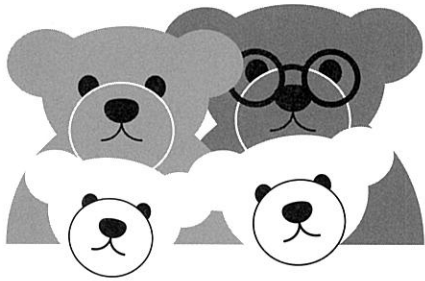
簡単に言えば孫の世話をする「祖父」のことを表した言葉だが、ただ単に孫のお守りをするだけではなく、より積極的に孫と関わり、オムツ替えから離乳食まで、ひとり孫の世話が全部できるおじいちゃんのことを指す。はたしてそんな「スーパーおじいちゃん」は本当に存在するのだろうか？ さっそく「ソフリエ」について調査を開始することにした。「ソフリエ」という新しい言葉を作ったのは「NPO法人エガリテ大手前」代表の古久保嗣さん。古久保さん自身はまだ50代で現役だが、きたるべき高齢化社会、リタイア後を見据えて2004年、大阪府立大手前高校卒業の同級生を中心に「エガリテ大手前」を立ち上げた。設立時の課題は「男女共同参画社会の実現を目指す」というものだった。ちょっと話はそれるが、この大手前高校は明治時代創立の大阪府女子校を前身としてきた高校で、女子校の名残から「クラスの名簿は女性が先」という伝統もあり、昔からかなりリベラルな校風だという。その学校で一緒に机を並べた男女の同級生たちが、社会に出て30年以上経っ

てあらためて感じたこと。それは「男女平等と言いつつも現実社会は相変わらず違う」「出産後の女性の社会復帰が困難をきわめることが、出産率の低下につながっている」ということだった。

では、真の男女共同参画社会を実現し、少子化をくい止めるためにはどうしたらいいのか。古久保さんを中心としたエガリテ大手前のメンバーが首都圏在住の家族へのリサーチを重ねていくうちに、少しずつ浮き彫りになってきたことがあった。

ひとつは、出産後の女性が実は保育園や託児所での保育よりも「可能であれば家庭内での保育」を望んでいるということ。そして、おじいちゃん世代は意外と「孫育て」に意欲的だということ。それに対しておばあちゃん世代からは「子育てもろくにすることがないのに、おじいちゃんや孫育てで、だなんて、危なっかしくて任せられないわよ」という本音。この三者三様の意見を一気に解決するのが、おじいちゃんが孫育てのエキスパート「ソフリエ」になるという発想なのだ。ソフリエの守備範囲は、オムツ替えはもちろん、沐浴、離乳食の準備からベビーマッサージまでと多岐に

デディーベアの家族のマークを目にしたら「まごの日」を思い出そう。



まごの日

10月16日(日)は、まごの日。

毎年の9月第3日曜日の敬老の日に対して、まごの日は10月の第3日曜日。提唱したのは

アだ。毎年9月第3日曜日の敬老の日に対して、まごの日は10月の第3日曜日。提唱したのは

ゲーム盤が家族のコミュニケーション

このまごの日を「孫と積極的にコミュニケーションをとる日」としてとらえてみてはどうだろう。遠方に住む孫と電話で話すのもいいし、可能であれば会って一緒に楽しい時間を共有したい。公園や動物園に出かけたり、おもちゃと一緒に遊んだりゲーム機全盛の時代だけれど、あえてここは昔ながらの遊びに徹するのもアリ。停電の多かった今年、電気を使わないトランプや昔ながらの

孫との絆を深めよう。

知っていましたか？
10月の第3日曜日は「まごの日」

母

の日と父の日、バレンタインデーとホワイトデーなど、対になったり連動したりする「日」の組み合わせに、祖父母と孫に関係するものがあるのをご存じだろうか。

『祖父、ソフリエになる 新米じいじ初めての孫育て』
編集：NPO エガリテ大手前
発行：メディカ出版



わたる。「子育てってこんなにやることがあるんだ」と目からウロコが落ちること間違いなしの内容のオンパレードだ。先日出版されたばかりの『祖父、ソフリエになる 新米じいじ初めての孫育て』（メディア出版）では、わかりやすいイラストを交えながら「孫と1日を過ごせる」「孫と公園に出かけられる」ことを目指して、具体的な方法がつぶさに紹介されている。ソフリエになるためには、今のと

ころエガリテ大手前と自治体が共同で開催する講座を受講することが必要だ。これまでに福岡県北九州市、東京都千代田区、同練馬区、三重県、神奈川県座間市などで講座を開催し、今後も全国の自治体での開催を進めていく予定だという。受講者の多くが60代で、定年を迎えて時間に余裕ができたリタイア組が主流を占める。中には「乳児を抱くのも怖くて躊躇してしまう」という人も少なからずいるが、目的を同じくする人たちと

一緒に実習を進めるうちに、どんどん自信を深めていくそうだ。修了時には認定証が自治体の長から贈られる。これまでに全国で70名ほどの人たちがそのソフリエ認定証を手に入れている。本誌読者のおじいちゃんも「孫育て」のエキスパートにチャレンジしてみたいかがだろう。子育てのときには気づかなかった新たな発見があるかもしれない。